

# 栃の木からの手紙

2023年 睦月 1月号



2023年、今年も今日も陽は昇り、どんな状況に有っても陽はまた昇る。良い状況の場合にはより良くなる様に、悪い状況の場合は、より良く向上出来る様に、そのきっかけと思える初日の出。益を貪る人達が悔い改め無益な争い事が無くなる事を願っています。

6日： 小寒

7日： 満月 旧12月16日

17日： 阪神淡路大震災

20日： 大寒

22日： 新月 旧1月1日



(写真は、豊田氏FBより)

2017年2月19日、東京ビックサイトでMOA自然農法文化事業団主催の公開シンポジウムが開催され、帰省と重なった私はその場に参加する事が出来ました。この時の発表者は左から1人目「豊田孝行氏」、3人目「栗木政明氏」。

「豊田孝行氏」は和歌山県の方で、医師をやる傍ら農業に従事する半農半医の人。話の中で、医療の薬局（ファーマシー）と農業（ファーマー）を融合した考え方で、医師が診察して薬を

処方する様に、症状に合わせて農産物を処方するという考え方（ファーマシー）を提唱する方。

「栗木政明氏」は石川県羽咋市のJA職員の方で、自然農法について白紙の状態から初めて今では自然農法作物を取り入れた学校給食の先進地を造り上げている。

農林水産省が提唱する「みどりの食料システム戦略」を見据えて、この様な方達の活動は参考になります。

当農場では、栽培3年目の赤ビーツを全部有機栽培に切り換え、当会員やスタッフの方々の働きで病気治療中の方々にビーツを摂り入れて貰う事が出来ました。まだまだ数名ですが、食べ物の持つ健康を摂り入れる事で病気に成りにくい日常生活を考えて実践する人が増える事を願い、今年も良い農産物に育って貰える様に環境作りに精を出します。

**血流改善・デトックス効果**  
**赤ビーツ**

赤ビーツの  
したごしらえ  
裏面をみてね

奇跡の野菜といわれる赤ビーツ

ビタミン・ミネラル・抗酸化物質・食物繊維など  
豊富な栄養を手軽に食卓へ

かんたん  
「ビーツ」したごしらえ

たっぷりのお湯に酢を少々いれて煮ておくことゆでる

大きすぎる場合は  
切りわけてもよし

ゆであがったら  
冷ましてから表面の薄皮をむく  
手でふりんとむけることもあるよ！

切ると赤く透明な汁があふれてきます  
びびと赤 び美っとビーツ！

ゆでずに生のまま千切りしてもいいですし  
適当に切り分けてオープンで焼くのもいいですよ

健康を食へる

ビーツドレッシング  
★北原のカマクラローター

ビーツのサンドイッチ  
★野菜ジュムリエ上農プロ  
はな子

赤ビーツとポテトのサラダ  
★北原のグリーンカフェ

ポルシチ/赤ビーツとマサカのジュチュー

# 2022年作物の出荷量

2023年1月号

オホーツク高橋農場の自然農法畑では、馬鈴薯の連作を続けています。大豆や赤ビーツが2反程あるので毎年10分の1程は馬鈴薯にはなりません。殆ど連作。

昨年の芋の植付け作業は、後ろに人を乗せずに一人で行いました。

また、除草目的の本培土を早期に始めて3回行っています。

2021年秋の芋の収穫後から翌春までえん麦の越冬栽培を行い、春先の雪融け時には、菌の繁殖を確認しました。雪前に多くの畑が土で茶色に見えている中、一面の緑は気持ちの良いものです。

出荷量の結果では、きたあかり芋は過去2番目の出荷量。芋全体でも反当たり616kgで個人選別箱詰め出荷を始めた2014年以降最高の出荷量となりました。でもね、慣行栽培はこの5倍前後ですよ。

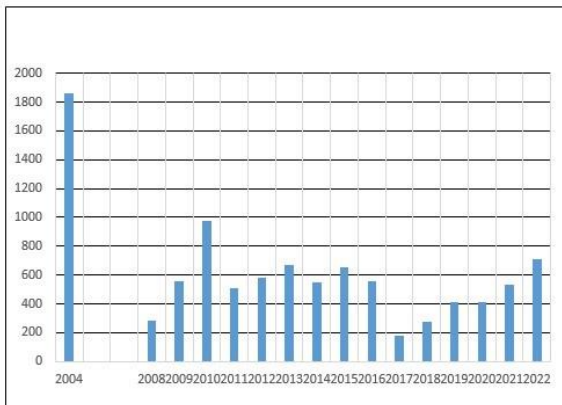


自然農法・有機JAS

きたあかり芋 反出荷量推移

作成:2022年 12月 11日

出荷年	反出荷量kg
2004	1860
2008	285
2009	555
2010	974
2011	512
2012	582
2013	669
2014	550
2015	652
2016	558
2017	182
2018	279
2019	412
2020	413
2021	537
2022	708



## 自然農法・有機JAS 出荷量 推移

オホーツク高橋農場

作成:2022年12月11日

反当たりの出荷量(kg)

作物名	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	
	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	
とうや	出荷量kg		340	980	924	1790	2016	230	1023	663	1873	2210	3282	<b>2180</b>
	反収kg		425	653	525	471	458	59	176	221	506	613	698	<b>463</b>
	面積a		8	15	18	38	44	39	58	30	37	36	47	<b>47</b>
きたあかり	出荷量kg		1280	990	1913	2640	2086	2175	547	1368	1278	1490	2255	<b>1700</b>
	反収kg		512	582	669	550	652	558	182	279	412	413	537	<b>708</b>
	面積a		25	17	29	48	32	39	30	49	31	36	42	<b>24</b>
さやあかね	出荷量kg		6360	2757	1648	1780	3330	2305	975	4110	2871	4800	1874	<b>2900</b>
	反収kg		1010	501	832	774	640	623	222	874	598	979	399	<b>828</b>
	面積a		63	55	20	23	52	37	44	47	48	49	47	<b>35</b>
ノーザンルビー	出荷量kg		0	110	534	987	745	485	456	1095	2098	1320	1123	<b>2130</b>
	反収kg		0	220	40	581	414	269	228	365	806	628	624	<b>710</b>
	面積a		1	5	13	17	18	18	20	30	26	21	18	<b>30</b>
シャドークィーン	出荷量kg		0	0	188	378	375	315	30	271	828	440	202	<b>950</b>
	反収kg		0	0	137	210	188	175	25	194	360	275	112	<b>395</b>
	面積a		1	3	14	18	20	18	12	14	23	23	18	<b>24</b>
黒大豆	出荷量kg				0	74	150	91	0	90	355	270	---	---
	反収kg				0	124	115	57	0	41	169	117	---	---
	面積a				4	6	13	16	24	22	21	23	---	---
ビーツ	出荷量kg			試験栽培	試験栽培					80	516	534		
	反収kg									400	1040	1068		
	面積a									2	4	5	<b>22</b>	

12/31現在

### H25年からの有機JAS畑の芋の出荷量推移

年号	H25	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	単位
芋面積	144	166	151	164	170	165	165	172	<b>160</b>	a
芋出荷量	7169	8221	5294	2803	6777	7656	9568	8736	<b>9860</b>	kg
反出荷量	498	495	351	171	399	464	580	508	<b>616</b>	kg

# 暦 と 気 象 ～

2023年 1月号

暦 と 気象 に関する俚諺の一つに次の様なものがあります。



2022年 12月 31日



2022年 12月 29日

北海道の日本海側では大雪で困っていますが、暖かく雪の少ないオホーツク海側の12月。それでもクリスマスに向けてまとまった雪が2・30cm程降ったが次第に融けて20cm程。漸く地面が凍り始めた年末に、有機圃場・小麦畑の雪踏み作業を年末年始で行いました。

## ☆ 雨量 と 地下水

雨量 ⇒ 旧正月元日から最初の未の日までの日数でその年の雨量を予知

元日 が 未 ⇒ 1合水 早魃

三日目が 未 ⇒ 3合水 早魃

十日目が 未 ⇒ 1升水 大水

地下水 ⇒ 正月元日 から最初の未の日の日数

2023年令和5年癸卯

旧正月 1月22日

最初の未 1月25日 4日目

最初の未 1月 1日 1日目

雨量 4

———— = ———— ⇒ 早魃

地下水 0

## ☆ 旧正月 と 立春

2023年

旧正月 1月22日

立春 2月 4日

立春より早い ⇒ 春が早い 秋が短い

⇒ 立春と同じ頃 ⇒ 平年並み

立春より遅い ⇒ 春遅い 秋が長い 夏短い

## ☆ 豊作

- ・小寒の日（1月6日） 少し雨が降る ⇒ 麦 豊作
- ・小寒の日（寒の入り） 雪降るは ⇒ 豊作 （1月5日降雪です）
- ・寒中に雷鳴 ⇒ 豊作
- ・寒中にしばしば雨降る ⇒ 春 豊作
- ・早魃 に 凶作なし （2021年7月早魃）
- ・旧暦閏年に 凶作なし （2023年は閏2月で2月が二回あり閏年）

## ☆ 凶作

- ・日蝕 ある年は ⇒ 凶作多い
- ・月食 ある年は ⇒ 蔓作凶作